

歴代の名品を一挙公開！
国宝14件、重要文化財24件を含む

漆と金の千年物語

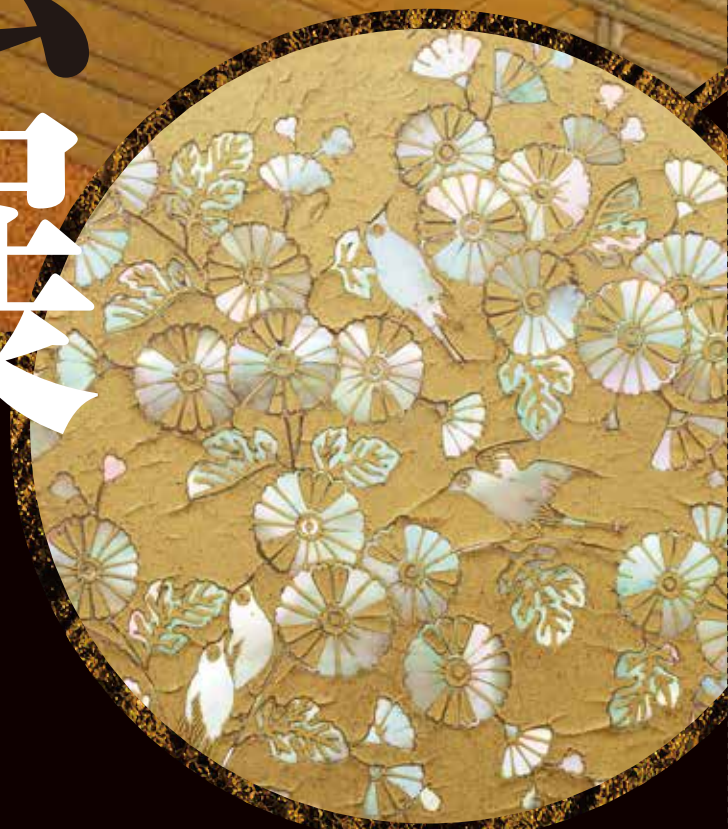
Special Exhibition
Magnificent Makie
Tales of Urushi and Gold over a Thousand Years

特別展 だい
大蒔絵 まぎ
展 え

2023
4.15(土) ▶ 5.28(日)

開館時間 | 午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
休館日 | 月曜日 ※GW期間:5月2日(火)～5月7日(日)は休まず開館
観覧料 | 一般 1,600円・高大生 800円・小中生 500円
※20名様以上の団体は一般 1,400円、高大生 700円、小中生 400円
※土曜日は高校生以下入館無料

主催 | 徳川美術館、MOA美術館、三井記念美術館、朝日新聞社
後援 | 國華社、漆工史学会、日本工芸会
協力 | あいおいニッセイ同和損保・名古屋市交通局



徳川美術館

THE TOKUGAWA ART MUSEUM

TEL (052)935-6262 FAX (052)935-6261

〒461-0023 名古屋市東区徳川町

大蒔絵展

漆と金の千年物語

漆で絵を描き、金粉や銀粉を蒔きつけて文様をあらわす「蒔絵」は、日本文化において長きにわたり理想美の象徴となっています。本展覧会はMOA美術館、三井記念美術館、徳川美術館の3館が共同で開催し、平安時代から現代の漆芸家作品にいたるまで、3会場で国宝25件、重要文化財50件を含む計188件を展覧して、蒔絵の全貌に迫ります。

最後の開催となる徳川美術館では、国宝14件、重文24件を含む約120件を展示。国宝「初音蒔絵調度」(徳川美術館蔵)をはじめ、平安時代の和様意匠の完成を示す国宝「仏功德蒔絵経箱」(藤田美術館蔵)や重文「野辺雀蒔絵手箱」(金剛寺蔵)、国宝「籬菊螺鈿蒔絵硯箱」(鶴岡八幡宮蔵)をはじめとする鎌倉時代の蒔絵の名品、琳派様式の蒔絵、江戸時代から近代に活躍した名工による作品など、各時代を代表する名品に、現代の人間国宝を加えた選りすぐりの蒔絵をご紹介します。さらに国宝「源氏物語絵巻」(徳川美術館蔵)をはじめとした物語絵巻や屏風、書跡なども併せて展覧し、日本人が追求した美の系譜をたどります。

*会期中、展示替えがあります。
前期 4月15日(土)～5月7日(日)
後期 5月9日(火)～5月28日(日)

第一章

源氏物語 絵巻と 王朝の美

国宝「源氏物語絵巻」(徳川美術館蔵)や和様の書を通して、平安時代に享受された貴族の美意識をたどります。こうした美意識は蒔絵にも反映され、素材を超えた和様の意匠の完成を見ることが出来ます。



国宝 源氏物語絵巻 柏木(一) 平安時代・12世紀 徳川美術館蔵 [5/20～5/28]

第二章

神々と仏の荘厳

御神宝や経箱、宝珠箱など神社や寺院に奉納された蒔絵の名品をご紹介します。



国宝 籬菊螺鈿蒔絵硯箱 鎌倉時代・13世紀 鶴岡八幡宮蔵 [前期]

重要文化財 野辺雀蒔絵手箱 平安時代・12世紀 金剛寺蔵 [後期]

国宝 仏功德蒔絵経箱 平安時代・10世紀 藤田美術館蔵 [前期]

国宝 金地螺鈿毛抜形太刀 平安時代・12世紀 春日大社蔵 [4/27～5/7]

第三章

鎌倉の手箱

鎌倉時代には蒔絵の基本技法である研出蒔絵・平蒔絵・高蒔絵が完成しました。内容品が附属する大型の手箱が多く、和歌や漢詩にちなんだ意匠が特徴です。



重要文化財 楡扇紋散蒔絵手箱 鎌倉時代・13～14世紀 東京国立博物館蔵 [前期]

重要文化財 山水人物蒔絵手箱 鎌倉時代・14世紀 MOA美術館蔵 [後期]

第四章

東山文化 蒔絵と文学意匠

室町時代には文学と結びついた意匠の蒔絵が多く登場します。また金貝や切金、銀なども多用され、蒔絵の技術も複雑化しました。



重要文化財 小倉山蒔絵硯箱 室町時代・15世紀 サントリー美術館蔵 [後期]



重要文化財 嵯峨山蒔絵硯箱 室町時代・16世紀 根津美術館蔵 [前期]

第五章

桃山期の蒔絵 黄金と南蛮

社会システムの転換期である桃山時代に登場した、簡略化された蒔絵様式である高台寺蒔絵や西洋人向けの輸出品として製作された南蛮漆器をご紹介します。



重要文化財 秋草蒔絵歌書筆筒 桃山時代・16世紀 高台寺蔵 [後期]

第六章

江戸蒔絵の諸相

幕府や大名家に抱えられた蒔絵師が伝統を継承する一方、光悦や光琳の琳派様式の蒔絵や町人の生活を彩る蒔絵の品々など、それまでの概念に囚われない新風も吹き込みました。



重要文化財 秋野蒔絵硯箱 伝五十嵐道甫作 江戸時代・17世紀 個人蔵 [前期]



▲四季草花蒔絵茶箱 原羊遊斎作・酒井抱一下絵 江戸時代・19世紀 個人蔵 [後期]

▶国宝 舟橋蒔絵硯箱 伝本阿弥光悦作 江戸時代・17世紀 東京国立博物館蔵 [前期]



藤蓮楓園 酒井抱一筆 江戸時代・19世紀 MOA美術館蔵 [全期間]

第七章

近代の蒔絵 伝統様式

明治維新で蒔絵を取り巻く状況が激変します。そのような中で欧米向けの作品製作や博覧会への出品、帝室技芸員制度など、新たな局面に対峙し、乗り越えてきた蒔絵師の名品をご紹介します。



五節句蒔絵手箱 紫田是真作 江戸～明治時代・19世紀 サントリー美術館蔵 [後期]

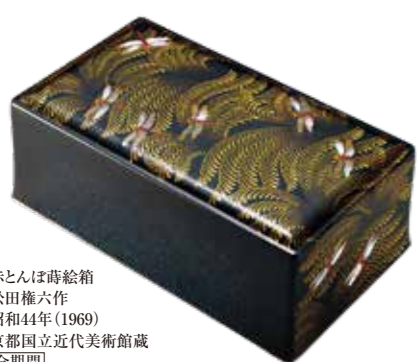


蒔絵八角菓子器 白山松哉作 明治44年(1911) MOA美術館蔵 [全期間]

第八章

現代の蒔絵 人間国宝

第二次世界大戦で伝統的な工芸技術が衰亡の危機に見舞われる中、それらの保存と伝承のため、重要無形文化財保持者(人間国宝)の認定が行われました。伝統工芸を担う人間国宝の作品をお楽しみください。



赤とんぼ蒔絵箱 松田権六作 昭和44年(1969) 京都国立近代美術館蔵 [全期間]



蒔絵螺鈿丸筒「秋奏」 室瀬和美作 平成29年(2017) ポーラ伝統文化振興財団蔵 [全期間]